

一代交配 パプリ

おしゃれな完熟ピーマン!

特 性

- ① 開花後60日位で収穫となるカラフル(赤・黄・オレンジ・紫・白)なジャンボピーマンです。(紫と白は開花後30~40日で収穫)
- ② 果肉は厚くサラダ料理の色づけによく生食以外にも、幅広い料理に利用できます。完熟果はもちろん、未熟果(青果)でも間引き果として収穫できます。



	パプリレッド	パプリゴールド	パプリオレンジ	パプリパープル	パプリホワイト	パプリEレッド	パプリEゴールド	パプリニューEレッド
草 勢	中	強	中の強	強	中	中	強	強
果 重	200~250g	200~250g	200~250g	150g位	150g位	150~200g	150~200g	150~200g
果 型	ベル型	ベル型	ベル型	ベル型	逆三角型	ベル型	ベル型	ベル型
果 色	緑→赤	緑→黄	緑→オレンジ	緑→紫→赤	乳白→朱赤	緑→赤	黄緑→黄	黄緑→赤

栽培のポイント!

カラーピーマンは播種から収穫まで、長期間にわたる栽培管理が必要となります。従って根の働きをよくする為に堆肥を多量に施し、深耕した保水性・通気性のよい土壌で栽培を行います。又、長期間の栽培となるので、ハウス雨除け栽培を基本とします。

育苗

育苗日数は約75日を要するので考慮の上、播種日を決定します。播種後、25日位で10.5~12cmのポリ鉢に移植します。その後、本葉6~7枚の頃、鉢のズラシを行い、健全な苗に仕立てます。

定植と肥培管理

- ① 元肥は深耕の上で、N成分で8~10kgのロングタイプの肥料を用い、燐酸はN成分の倍量以上、全面施用とし畦立てを行います。Mgを多く必要とする作物なので苦土石灰も必ず元肥に施します。
- ② 追肥は草勢と着果数を見て、7~14日間隔で行います。N成分で2~3kgの液肥または有機化成5~6kgを穴肥で施用します。
- ③ 畦幅は150cm、株間は45~60cmとし、地下水位の高いところではやや高畦とします。畦の両肩に灌水チューブを敷き、シルバーマルチングを行い定植します。
- ④ 定植苗には1番花開花直前の充実した苗を用い、定植後は直ちに、仮支柱をし倒伏を防ぎます。
- ⑤ 梅雨あけ前には畦上に敷藁をし、ハウス内の温度が上がりすぎない様になります。ハウス内の天井にラブリット等で被覆するのも良いでしょう。

整枝と摘果及び誘引

- ① 活着後11~13節で第一次分枝、その後第二分枝が発生しますが、この第一・第二分枝の4本の枝を主枝とし4本仕立てとします。
- ② 初期はU字型とし、その後直立又はV字型とします。1~3番目を摘花し、4番、5番目に成らせませす。その後は6~7番を摘果し、草勢に応じて2節飛ばしを基本に着果させます。
- ③ 変形果などクズ果は早い目に摘果し草勢の維持を計ります。
- ④ 側枝の太さが主枝と同じ位であれば、側枝に着果させると正型果となります。すいすいです。

生理障害

- ① 高温乾燥とN肥料の多用はCa不足となり、尻腐れ果の発生原因となるのでCaの葉面散布と十分な灌水が必要です。
- ② 肩部のひび割れ(ラスセッティング)は温度変化の激しい時におこりやすく、特に高温時の早朝で日射量が急に増加すると発生しやすくなります。
- ③ ピッチング(水浸状の斑点)は温度が急に下がった際に、水を強く吸収する事があると発生します。特に日の出前の早朝灌水は避けます。

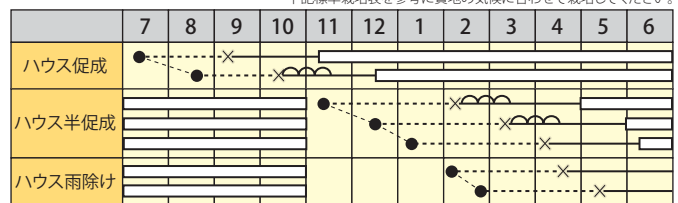
病虫害防除

- ① アブラムシの発生が多いので、育苗中期より定期的に薬剤散布を行い、植え穴か株元にオルトラン粒剤などを土壌混和します。その他、ミナミキイロアザミウマやダニに対しても、早めの防除を行います。
- ② 梅雨期になると茎葉が軟弱となり疫病が発生しやすくなります。圃場の排水をよくし、薬剤散布は早めに予防的に実施します。

収 穫

- ① 果実全体が90%程度着色すれば、収穫期となりますが、低温期は追熟しにくいので果実全体が色ムラなく着色するのを確認して行います。
- ② 収穫の目安は品種により異なりますが開花後約60日を要します。
- ③ 収量の目安はハウス半促成~ハウス雨除けで25~30果/1株、ハウス促成長期穫りで50~60果/1株です。

下記標準栽培表を参考に貴地の気候に合わせて栽培してください。



● 播種 育苗 × 定植 — 生育 ◡ トンネル □ 収穫